

手仕事屋きち兵衛 愛唱歌集

1. ともだち
2. 早春賦
3. みかんの花咲く丘
4. 花の街
5. 朧月夜
6. この道
7. 夏の思い出
8. 浜辺の歌
9. 芭蕉布
10. あざみの歌
11. ちいさい秋みつけた
12. 秋
13. 初恋
14. 浜千鳥
15. 出船
16. 平城山
17. 青菜の笛
18. 水色のワルツ
19. 冬の星座
20. ぼくは冬の子
21. 故郷



このCDを権利者の許諾なく複製または使用することを禁じます。また、個人的に利用する等の場合を除き著作権法上弊社に無断でテープ、ディスク等に録音することを禁じます。
（取り扱い上のご注意）●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱ってください。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射線状に軽くふき取ってください。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、急激な温度変化に使用しないで下さい。（保管上のご注意）●直射日光の当たる場所や、高温多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、玉のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

TSDA-061121
COMPACT
SATRA C DISC
R-0600780 DIGITAL AUDIO

手仕事屋きち兵衛

愛唱歌集

TSDA-061121

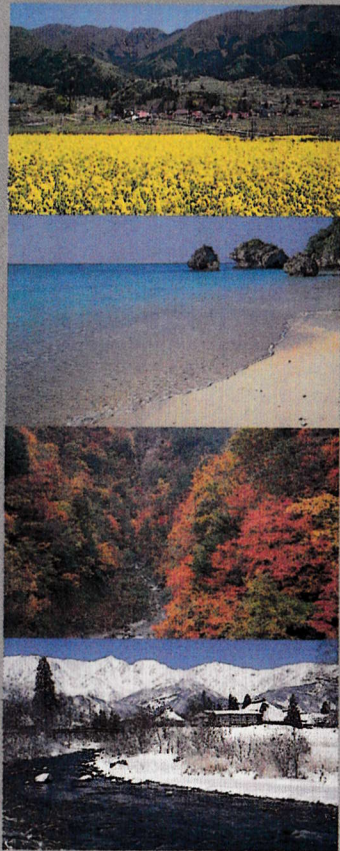
手仕事屋きち兵衛 愛唱歌集



手仕事屋きち兵衛

愛唱歌集

TSDA-061121



1. ともだち
2. 早春賦
3. みかんの花咲く丘
4. 花の街
5. 朧月夜
6. この道
7. 夏の思い出
8. 浜辺の歌
9. 芭蕉布
10. あごみの歌
11. ちいさい秋みつけた
12. 秋
13. 初恋
14. 浜千鳥
15. 出船
16. 平城山
17. 青葉の笛
18. 水色のワルツ
19. 冬の星座
20. ほくは冬の子
21. 故郷

ともだち

作詞・作曲 手仕事屋きち兵衛

君の涙と汗の きれいな光を
決してわすれはしない 友達でいよう
夢を追いかけてつづける 若い旅人
君の涙と汗に 拍手を贈ろう

君が頑張る時は ほくも頑張れる
ほくが笑顔の時は 君も笑ってる
たとえ少しづつ歩いて 足踏みしても
君の涙と汗に 拍手を贈ろう

いつまでも変わらずに 友達でいよう
いつでも信じられる 友達でいよう
一つ乗り越えた時に 光り輝く
君の涙と汗に 拍手を贈ろう

友達 友達 ともだちでいよう



早春賦

作詞 吉丸 一昌
作曲 中田 章

春は名のみ 風の寒さや
谷の鶯 歌は思えど
時にあらずと 声も立てず
時にあらずと 声も立てず

氷解け去り 葦は角ぐむ
さては時ぞと 思うあやにく
今日もきのうも 雪の空
今日もきのうも 雪の空

春と聞かねば 知らでありしを
聞けば急かる 胸の思を
いかにせよとの この頃か
いかにせよとの この頃か

みかんの花咲く丘

作詞 加藤 省吾
作曲 海沼 実

みかんの花が 咲いている
思い出の道 丘の道
はるかに見える 青い海
お船がとく かす霞んでる

黒い煙を はきながら
お船はどこへ 行くのでしょう
波に揺られて 島のかげ
汽笛がほうと 鳴りました

いつ何時か来た丘 母さんと
一緒に眺めた あの島よ
今日もひとりで 見ていると
やさしい母さん 思われる

花の街

作詞 江間 章子
作曲 團 伊玖磨

なないろ七色の谷を越えて
流れて行く 風のリボン
輪になって 輪になって
かけていったよ
春よ春よと かけていったよ

美しい海を見たよ
あふれていた 花の街よ
輪になって 輪になって
踊っていたよ
春よ春よと 踊っていたよ

すみれ色してた窓で
泣いていたよ 街の角で
輪になって 輪になって
春の夕暮れ
ひとりさびしく ないていたよ

朧月夜

おほろづきよ

作詞 高野 辰之
作曲 岡野 貞一

菜の花畠に 入り日薄れ
見わたす山の端 は霞ふかし
春風そよふく 空を見れば
夕月かかりて におい淡し

里わの火影も ほかげ 森の色も
田中の小路を たどる人も
蛙のなくねも かわけ かねの音も
さながら震める かす 朧月夜



この道

作詞 北原 白秋
作曲 山田 耕筈

この道はいつか来た道
ああ そうだよ
あかしやの花が咲いてる

あの丘はいつか見た丘
ああ そうだよ
ほら 白い時計台だよ

この道はいつか来た道
ああ そうだよ
お母さまと馬車で行ったよ

あの雲もいつか見た雲
ああ そうだよ
山さんざし壺子の枝もな垂れてる

夏の思い出

作詞 江間 章子
作曲 中田 喜直

夏がくれば 思い出す
はらかな尾瀬 遠い空
霧のなかに うかびくる
やさしい影 野の小径
水芭蕉の花が 咲いている
夢見て咲いている水のほとり
石楠花色に たそがれる
はらかな尾瀬 遠い空

夏がくれば 思い出す
はらかな尾瀬 野の旅よ
花のなかに そよそよと
ゆれゆれる 浮き島よ
水芭蕉の花が 匂っている
夢みて匂っている水のほとり
まなこつぶれば なつかしい
はらかな尾瀬 遠い空

浜辺の歌

作詞 林 古溪
作曲 成田 為三

あした浜辺を さまよえば
昔のことぞ 忍ばるる
風の音よ 雲のさまよ
寄する波も 貝の色も

ゆうべ浜辺を もとおれば
昔の人ぞ 忍ばるる
寄する波よ 返す波よ
月の色も 星の影も

疾風たちまち 波を吹き
赤裳のすそぞ ぬれいじし
病みし我は すでに癒えて
浜辺の真砂 まなごいまは

芭蕉布

作詞 吉川 安一
作曲 普久原 恒男

海の青さに 空の青
南の風に 緑葉の
芭蕉は情に 手を招く
常夏の国 我した島 沖繩

首里の古城の 石だたみ
昔を偲ぶ かたほとり
実れる芭蕉 熟れていた
緑葉の下 我した島 沖繩

今は昔の 首里天じゃなし
唐ヲウ一つむぎ はたを織り
上納ささげた 芭蕉布
浅地 紺地の 我した島 沖繩 沖繩

あざみの歌

作詞 横井 弘
作曲 八洲 秀章

山には山の 愁いあり
海には海の 悲しみや
ましてころの 花ぞのに
咲きしあざみの 花ならば

高嶺の百合の それよりも
秘めたる夢も ひとすじに
くれない燃ゆる その姿
あざみに深き わが思い

いととき花よ 汝はあざみ
ころの花よ 汝はあざみ
さだめの道は はてなくも
かおれよせめて わが胸に

ちいさい秋みつけた

作詞 サトウハチロー
作曲 中田喜直

誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた
めかくし鬼さん 手のなる方へ すましたお耳に かすかにしみた
よんでる口笛 もずの声
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた

誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた
お部屋は北向き くもりのガラス うつろな目の色 とかしたミルク
わずかなすきから 秋の風
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた

誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた
むかしの むかしの 風見の鳥の ほやけたとさかに はぜの葉ひとつ
はぜの葉あかくて 入日色
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた

秋

作詞・作曲 手仕事屋きち兵衛

秋がわたしを追いかけてくる
足音忍ばせ そっとくる
私は静かに目を閉じて
秋風の中に立ち止まる
ああ 秋がわたしを追いかけてくる

秋がわたしを誘って踊る
色とりどりの 服を着て
わたしも紅葉の髪飾り
秋の踊りの輪をつくる
ああ 秋がわたしを誘って踊る

秋がわたしにさよならをする
すすきと落ち葉を 遣わして
私の日記もアルバムも
思い出 秋色 名残り色
ああ 秋がわたしにさよならをする

初恋

作詞 石川啄木
作曲 越谷達之助

砂山の砂に
砂に腹遣い
初恋のいたみを
遠くおもい出ずる日

初恋のいたみを
遠く遠く
ああ ああ
おもい出ずる日

砂山の砂に
砂に腹遣い
初恋のいたみを
遠くおもい出ずる日

浜千鳥

作詞 鹿島 鳴秋
作曲 弘田 龍太郎

青い月夜の 浜辺には
親を探して 鳴く鳥が
波の国から 生まれ出る
濡れた翼の 銀の色

夜鳴く鳥の 悲しさは
親を尋ねて 海越えて
月夜の国へ 消えてゆく
銀の翼の 浜千鳥

出船

作詞 藤田 香月
作曲 杉山 長谷夫

今宵出船か お名残り惜しや
暗い波間に 雪が散る
船は見えねど 別れの小唄に
沖じゃ千鳥も 泣くぞいな

今鳴る汽笛は 出船の合図
無事で着いたら 便りをくりゃれ
暗いさみしい 灯影の下で
涙ながらに 読もうもの

平城山

作詞 北見 志保子
作曲 平井 康三郎

人恋うは
かなしきものと
平城山に
もとおきつつ
たえがたかりき

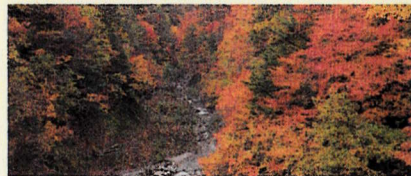
いにしえも
夫に恋つつ
こえしとう
平城山の道に
涙おとしぬ

青葉の笛

作詞 大和田 建樹
作曲 田村 虎蔵

一の谷の 軍破れ
討たれし平家の 公達あわれ
暁寒き 須磨の嵐に
聞こえしはこれか 青葉の笛

更くる夜半に 門を敲き
わが師に託せし 言の葉あわれ
今わの際まで 持ちし籠に
残れるは「花や 今宵」の歌



水色のワルツ

作詞 藤浦 洗
作曲 高木 東六

君に逢ううれしさの 胸にふかく
水色のハンカチを ひそめる習慣が
いつのまにか 身にしみたのよ
涙のあとをそっと 隠したいのよ

月影の細路を 歩きながら
水色のハンカチに 包んだ嘘きが
いつのまにか 夜露にぬれて
心の窓をとじて 忍び泣くのよ

いつのまにか 身にしみたのよ
涙のあとをそっと 隠したいのよ

冬の星座

作詞 堀内 敬三
作曲 ヘイス

木枯しとだえて さゆる空より
地上に降りしく 奇しき光よ
ものみな憩える しじまの中に
きらめき揺れつつ 星座はめぐる

ほのほの明かりて 流るる銀河
オリオン舞い立ち スバルはさざめく
無窮をゆびさす 北斗の針と
きらめき揺れつつ 星座はめぐる



ぼくは冬の子

作詞・作曲 手仕事屋きち兵衛

赤いホッペしてる あの子 この子
木枯らしの道は冷たい
だけどぼくは 冬が大好きだよ
白い息を吐いて行けば 機関車だよ
足跡がつづく ずっとつづく ぼくがつけてゆく 残してく

雪がまたそっと降って来たよ
ぼくのまわりも空になる
こんな冬がぼくは大好きだよ
両手広げ かけてゆけば飛行機だよ
雪がふえてくる 空を見てる ぼくの体も浮き上がる

風の子になって 走りまわる
雪の子になって ころがる
だってぼくは冬に生まれたんだよ
だから冬は大好きな友達だよ
北風の笛に 雪が踊る
ぼくもスキップで帰り道 ぼくもスキップで帰り道

故郷

作詞 高野 辰之

作曲 岡野 貞一

うさぎ

兎追いし かの山

こぶな

小鮒釣りし かの川

夢は今もめぐりて

忘れがたき ふるさと

いひ

如何にいます 父母

つとめ

恙 無しや友垣

雨に風につけても

思い出ずる ふるさと

こころ

志を 果たして

いつの日にか 帰らん

山はあおきふるさと

水は清き ふるさと

忘れがたき ふるさと

Produced by 山崎良弘、手仕事屋さち兵衛

Sound Produced by TOSHITARO (T's Planning Co.)

Drawing by 齋藤 清

Photo by 宮下常雄

Designed by 保多俊彦

Recording Staff

星野真入、野村義典 (TRYARD INC.)

藤田 崇 (クリアウォータースタジオ)

長谷川芳治 (あづみ野コンサートホール)

菊地 功 (MIXER'S LAB)

Musicians

Vocal 手仕事屋さち兵衛

Piano 原 ゆうみ

Flute 桂 聰子

Violin 深澤 厚、五島美佳

Viola 森下康司

Cello 寺澤克義

Piano & Keyboard

田口 真

Guitar 佐藤浩司

Bass 山内和義

Guitar 小畑和彦 [故郷]

All songs arranged

computer programming & Mixed by TOSHITARO

Special Thanks

手仕事屋さち兵衛保存会

松本あさま温泉 ホテル玉之湯